

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
前橋市元総社町六七番地
電話 027・255・3434
FAX 027・255・3435

帰宅時に、草むらから虫の声がして季節の移り変わりを感じます。ようやくホッと出来る日々になりました。

ちよっと荷物の整理をしていたら手紙、写真、書類などが山のように出てきました。もちろん書籍、雑誌はダンボールに二十箱近く。

食器、雑貨も結構たまり、絵画、工芸作品もまあまあ数でした。

生活というのは、その空間にあわせて増えていくものだと思います。

プラスの生活からマイナスの生活に切り替えていかなくは・・・と思いました。ある友人は、私から見ているとフットワークがよくて、

自分の制作も、畑仕事も、展覧会まわりも、映画やコンサートにも積極的に出かけています。そんな姿を見ていると心配になって、私は、

その友人に「20パーセント引きにね!」と言います。自分にも向けの言葉なのですが、頭で思っている以上に身体は正直ですから「やり過ぎ」の私にしてみると、その程度でちょうど良い生活のリズムの

ようです。住居空間のレイアウトを変えてみるのも気分転換になり、年齢とともに必要かもしれません。

「シンプルに暮らす」ドミニク・ローホー著(中経出版)を手元に置いて読んでいます。シンプルな生活の中から生きていく上で何が大切なのかがよくわかってきます。機会があったら手にとってみて下さい。

とにかく自分にあつたシンプルな自分ルールを作って実行、続けることだと思います。私のシンプルルールは朝五時〜六時の起床、フレッシュジュース(バナナ、プルーン、豆乳)、二十分のストレッチ、体重測定。夜は食材を変えてフレッシュジュース(りんご、小松菜、レモン、水)、二十分のストレッチ、体重測定、十時の就寝、三食は昼食に重点をおいて、しっかりと、そしてほどほどにバランス良く食べる・・・この、しっかりと、ほどほどが難しいのですが。フレッシュジュースは季節によって変えています。そして食器も変えたり、調理に

手間をかけて楽しんで食事の時間を過ごすように心がけています。毎日の暮らしでの身体の不調、精神面でのダメージはありませんか? 誰もがいくつかの問題を抱えています。

そのまま、なるがまま何もせずにいる人。少しでも自分なりに出来る範囲内での努力をしている人。生活習慣を変えることを実行している人。一人で無理なら友人と共通の趣味や身体を動かす場を見つけて実行してみたいかがでしょうか。

(武藤)

ノイエス朝日の展覧会

尾崎暁美 永井與子 二人展 〈企画〉

― 絹の織りなす悠久の風 ―

会期 九月二十六日(水)〜十月二日(火)
午前十時〜午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

二〇〇四年にノイエスで個展を開催した尾崎暁美さんと安中市松井田在住の永井與子さんの二人展です。

尾崎さんは、満州生まれ、長野高等女学校卒。結婚後五十年京都に在住。シンガーソングライター尾崎亜美さんのお母様です。帯地などを使用した創作バッグなど。

また、永井さんは、長年、友禅の世界で仕事をされてきました。着尺や帯、小物にいたるまで季節感溢れる柄の楽しい作品が並びます。

白川昌生展 Step・out 〈企画〉

会期 十月六日(土)〜十四日(日)

午前十時〜午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

「今回はひさしぶりに彫刻の仕事をやってみようと思いました。多様化し大きく変化してきている現在のアート領域のなかで、彫刻も具象形態が完全に回帰し、物語性が復活している。近代アートのなかで切り捨てられたものたちが、回帰してきたのだ。そういう中で彫刻の可能性をどう表現していけるか、冒険をするような気持ちでとりくんでいきたい。」
白川昌生

Color of warmth プリザーブドフラワー展

会期 十月二十三日(火)〜二十八日(日)

午前十時〜午後五時(最終日は午後三時終了)

ノイエス朝日 スペース1・2

生誕一三〇年記念
上州の探検家・矢島保治郎

― 中国・西藏 3000kmの旅 ―

小松健一 作品展 〈企画〉

会期 十一月十日(土)〜十八日(日)

午前十時〜午後五時三十分(最終日は午後五時)
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

特別企画

小松健一ギャラリートーク 無料

- ① 十一月十日(土) 午後二時三十分〜四時
オープニングレセプション 四時三十分〜
- ② 十一月十七日(土) 午後二時三十分〜四時

記念写真報告集限定版 二〇〇〇円(税込)

〈朝日印刷工業株式会社〉

主催 矢島保治郎 顕彰記念実行委員会

後援 上毛新聞社

協賛 朝日印刷工業株式会社

株式会社 シグマ 株式会社 写真弘社

株式会社 フレームマン

株式会社 ニコン 株式会社 タムロン

お知らせ

突然のお知らせですが、彫刻家、沖村正康氏が九月四日に肝臓ガンで逝去されました。

今年六月に発病し、本人の強い希望で誰にも言わないように・・・との事だったそうです。

ノイエスでは二〇〇九年二月に「沖村正康彫塑展」を開催いたしました。その後も他の仕事で私の運転で車中二時間程お話しする事もあり、沖村さんの人柄に触れました。

私の横には、沖村さんの裸婦デッサンがありますが、彫刻家らしい、しっかりと品格のある作品です

ご本人の最後の手紙が同封されていましたが、最後まで沖村さんらしい生き方をされたと思います。

心からご冥福をお祈りいたします。

武藤